

第 3605 図

ろうばい科



第 3606 図

もくれん科



第 3607 図

もくれん科



とうろらばい (檀香梅)

Meratia praecox Rehd. et Wils.
var. *grandiflora* Rehd. et Wils.

支那原産の落葉性灌木で、観賞花木として往々人家に栽植せられる。高さ2-4m許、枝を叢生して、多く分枝し、葉は短柄をもって対生し、卵形又は卵状楕円形、鋭尖頭、基部円形、全縁、葉質は硬く、葉面はざらつく。花は早春葉の展開するより先に昨年葉の腋に1個宛を密接下向して開き、半開状径2cm許ある。花被は多数あり、外層片は鱗片状、中層片は大形で強光沢のある黄色、縁辺上半は多少内巻し、内層片は小形で暗紅色、雄蕊は5個あり、葯は外向、雌蕊は多数あり凹形をなす花托内にあり、ロウバイに比較して、花径は稍大形、花弁も亦稍大きく、広長楕円形をなす。和名は唐蠟梅の意である。

らげざきおおやまれんげ

Magnolia Watsoni Hook. fil.

往々庭園に観賞花木として栽植せられる落葉性小喬木。ホオノキとオオヤマレンゲの雑種と認められている。枝は稍太く、葉は有柄互生し、倒卵形或は倒卵状長楕円形、長さ15cm内外、鈍端、葉縁は全縁、下面は粉白を呈し、軟かい絹毛がある。苞は帽状で一つ上の幼葉を包み、早落性、花は初夏枝端に単生し、短大有毛の花梗を以って上向して開き、白色、佳香があり、径12-15cm許、浅い皿形をなし、萼片3個は背面淡紅色、長楕円形舟形で、花弁は10個許あり、筒状倒卵形、帯紫紅色の雄蕊多数は花中に突出する柱状花托の基部に低く螺旋状をなして配列し、心皮は多数あり、柱状花托の上半部に螺旋する。不実性であり、果実を結ばない。和名は受咲大山蓮華の意。

ともくれん

一名ひめもくれん

Magnolia liliflora Desr.

var. *gracilis* Rehd.

(=*M. gracilis* Salisb.)

支那原産の落葉性灌木で、観賞花木として我国の庭園に栽植せられる。樹はモクレンより小さく、幹枝は叢生してよく伸長して細く、葉は稍細く且つ薄い一変種である。葉は互生し、倒卵形、基部は楔形、薄い草質、全縁、先端は急に鋭尖し、下面の脈上に細毛があり、短柄を有する。4-5月頃、少しく葉に先立って、枝頭に半開の暗赤紫色、香気ある大形花を開く。蕾には膜質の苞があり、萼は3片、狭披針形、淡緑色、花時には反曲し、花弁は6片あり、肉質、2列生をなしモクレンより小形で細く、先端はやや尖り、内面は淡色で白けて見え、雄蕊は多数あって、花底に集まり、心皮も亦多数あり、花中に突出する花托柱上につく。

ときわれんげ

Magnolia Coco DC.

(=*M. pumila* Andr.)

支那広東省の山地に自生する常緑灌木で、南方各地に栽植され、本邦でも暖地に稀に栽えられる。高さ2m内外、枝は細く、葉を互生し、全体平滑である。葉は披針状長楕円形、長さ15cm許先端は尾状に漸尖し、基部楔形、全縁、縁辺やや波状を呈し、質やや硬く、上面は暗緑色で光沢あり、中肋及び側脈は凹入し、下面は蒼白色、肋及び脈は凸出し、網脈は明瞭で、柄は2cm許ある。初夏枝頂より短梗を彎曲して生じ、蕾は平滑な鱗片葉を被り、後これを脱して、乳白色半開状で、径4-5cm許の花を開く。萼片は3個、倒卵状楕円形、帯緑色、花弁は6個、2列をなし、肉質、広倒卵形、円頭、狭脚、長さ3cm許。花期は甚だ短かく、花弁は落下しやすい。

らめざきいかりそら

Epimedium Youngianum Fisch.

北九州の浅山丘陵に自生する多年生草本。地下に木質の根茎があり、年々新葉新茎を出す。暖地では時に旧葉が緑葉で冬を越す。葉は柄が瘠せて細く、2回2出、バイカイカリソウに比べて巾広く質厚く、広卵状楕円形。花茎は早春生じ、高さ20-30cm、開花期には葉はまだ十分に伸びていない。花は円錐状につき、白色で球形、長さ6mm内外、萼片4は十字形に開出、花弁4は相集って鐘形となり、短かい距を屢々生ずる。雄蕊は4、黄葯、弁開するのは本属の特徴。和名は梅咲で花容に因む。古く九州から海外に送られ外国の園芸書には載るが我が国では栽培を見ること稀である。

ときわいかりそら

Epimedium sempervirens Nakai

山陰から北陸へかけて林下に産する多年生草本。高さ20-30cm地下に木質の根茎あり、塊状をなすが時々長く走って別種の状を呈する。葉は花時には伸び切っていない。成熟すれば2回3出し、小葉は広楕円形深心脚、屢々戟脚となり、厚い膜質、光沢、鮮緑色、葉脈が凹み、裏は粉白、冬を凌いで枯れず、紅色に美しく染まる。花序は1葉と対生、円錐状で各花は表日本のイカリソウと同様、大輪で距長く、径3-4cm、北方で白花、若狭湾附近では紅花を混ざることが多い。和名は常盤イカリソウの意で、葉が常緑なるに因る。

第 3608 図

もくれん科



第 3609 図

へびのぼらす科



第 3610 図

へびのぼらす科

